

#### 4. 経済学部、経済学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 13 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 14 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

### 〔判定〕 高い質にある

#### 〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

附属プロジェクトセンターを通じた研究プロジェクトの運営、公認セミナーシリーズ制度の導入など研究体制整備への取組を実施し、学術研究成果の社会還元、プロジェクト型研究の推進、政策研究・提案や学界コミュニティに関する活動を行っている。

#### 〔優れた点〕

- 教員が分野別にグループを形成してセミナーシリーズを企画し、一定数のセミナー開催を条件に、当該セミナーシリーズを「公認セミナー」として認定して財政的支援をおこなっている。令和元年度は8グループが採用され、合計89回（のべ参加者は1,205名）のセミナーが開催された。
- 附属プロジェクトセンターを通じて、現代産業社会活性化のためのプロジェクト型研究の推進を図っている。現在、「スマート・グリッド・エコノミクス」、「理論・実証を統合する数理ファイナンス研究教育拠点形成」、「国際貿易に関する理論・実証分析の拠点と大学院教育の高度化」、「企業間関係と境界のマネジメントの計量的・質的分析手法の研究」、「制度を重視した経済動学の教育・研究」、「マクロ経済学に関する理論・実証研究の研究教育拠点」、という6つの研究プロジェクトが運営されており、専任教員に加え、学内外の研究者や特任研究員をセンターのメンバーに迎えて活発な研究活動が行われている。

#### 〔特色ある点〕

- 多くの教員が毎期継続的に、中央省庁や地方自治体等の審議会委員等を務め、各領域における専門知識を生かし、社会的課題に対して解決策の研究・提案等を行っている。
- 平成28年度から令和元年度において、国際誌のエディター12名、学会長・理事等12名、学会における座長51名、学会運営委員会委員139名、査読付き学術誌のレフェリー担当247名など、学術コミュニティの運営に対して大きな貢献をしている。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

**〔判定〕 特筆すべき高い質にある**

### 〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、5件、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、特筆すべき高い質にあると判断した。

「スマートグリッドの経済効果に関するフィールド社会実験」の研究成果は、American Economic Journal: Economic Policy など学術雑誌に掲載されている。「五感を活用した製造・マーケティング戦略の発展」は19世紀末以降の米国食品産業に焦点を当てた研究であり、その基になる博士論文は米国北東部地域大学院協会の博士論文賞などを受賞している。「家計内資源配分に関する研究」は、消費や余暇の選択など家計内の支出配分や時間配分に関してモデルから洞察される理論的示唆をデータを用いて実証的に検証し、その成果はReview of Economic Studiesなどに掲載されている。「国際課税制度が多国籍企業の事業活動に与える影響に関する実証研究」は、国際課税制度の変更の帰結及び政策効果を実証的に検証した学術的に卓越した研究である。